

《 コラム 》 Vol.30

タイランド 2023 年 5 月

今回は久々の海外渡航、タイ出張のお話です。
コロナ禍の影響があり、実に 3 年半ぶりのタイランド。
少々長めのお話になりますが、暫しお付き合いを。

まず降り立ったのはスワナプーム国際空港。
入国手続きでは人はそんなに多くないと感じました。
旅行者の人数は、まだコロナ前までは完全に戻っていないのかもしれませんが。
ただ、LCC ですと旧国際空港のドムアン空港からの入国になりますので、
そちらの方は中国人観光客などでごった返しているのかもしれませんが。
実際に沢山の中国の方々がタイへ入国しているという話があります。

入国審査などはワクチン接種証明など必要なく、平常通りです。
ただ、指紋をスキャンされますので、ノビサックを着けていると入国できません。

無事に入国、荷物を受け取り、いざ空港の外へ。
出口から一步踏み出した途端、容赦ない熱気が体中を包み込みます。
思わずシャツを脱いで上半身裸になりたいほどの暑さです！
それもそのはず、今年のタイは異常に暑いとのこと。
少し前に史上 2 番目の暑さを観測したらしいです。
そのときの体感温度はなんと、50 度越え！

タイ在住の知人（日本人）の話によると、最近あまりの暑さで、
ゴルフ場で日本人が 2 名も亡くなっているそうです。
で、その後の話を聞いてビックリ。
ご遺体を日本まで運ぶのですが、その費用…なんと、1,000 万円越え！！
「国外では絶対に死んではいけない…」、と思う今日この頃です。

空港を後にバンコク市内のホテルへ車で移動。
移動中に、車窓から見慣れない車が見てとれます。
GM のロゴの車や、電気自動車らしい可愛らしい形の車をちらほら。
これらは中国からの車との事。（ニーハオ！）
コロナ前には見かけませんでしたので、タイの車市場の変化を感じました。

空港から約 40 分で無事にホテルへ到着。

ホテルに着いたら、まずは家族への安否確認の連絡ですね。
昔はホテルのルーム電話から日本へ国際電話を掛けましたが、今は皆さん携帯電話ですね。
が、しか〜し！　ここはタイランド、日本の携帯電話は使えません。
おっと、どっこい！　ホテルのフリーWi-FiがあればSNSで連絡が出来ます！
世の中便利になりました。

でも、フリーWi-Fiがないと、さすがに日本の携帯電話もただの板です。
タイ国内のどこでも使用できるようにするためには、
日本の通信会社のローミングサービスを利用するか、
現地の通信会社のサービスを利用する必要があります。
今回は後者、現地の通信会社を利用することにしました。
(あ、イモトのWi-Fiというのもありますね。)

今までの知見ですと、現地の通信会社を利用する場合は、
現地空港などにある通信会社のカウンターでプリペイド式のSIMカードを購入し、
既存の携帯のSIMカードと入れ替えるのが普通だったと思います。
で、今回試したのがプリペイド式のeSIMを使用するシステムでした。
eSIMはSIMのデータをスマホの内部メモリーに保存できるものですね。
なんと、これがとても便利でしたっ！

まず出国の数日前に、Webサイトからタイの通信会社のプリペイド式のeSIMを購入。
購入といっても「物」ではなくデータですので、
データのダウンロード用のQRコードを入手します。
(このQRコードを事前にプリントアウトする必要があります。)
今回は8日間で15GB使用できるeSIMを購入しました。(費用約千円！安！)
タイ国内に入国したら、Wi-Fiの環境下でこのQRコードを読み込みます。
するとeSIMのデータをダウンロードできるので、後はスマホの設定をちょいと変更するだけ。
わざわざ通信会社のカウンターに行く必要がありません。(ありがたい！)
世の中便利とてもになりました。(よく「便利が良い」といいますが、「不便が悪い」と言わないのはなぜでしょう・・・?)

話は変わって、現在のタイのマスク事情の報告です。
街中でもほとんどの人はマスクをしていない感じです。

マスクをしている人は、いても1～2割程度でしょうか。
電車の中は、多くの方がまだマスクをしていました。
ヨーロッパや観光客と思われる方々は電車内でもマスクはしていません。
私もマスクはしたくないのですが、目立たないためにマスクをしました。
海外ではできるだけ「目立たない」のが鉄則です。(郷に入っては、電車でGO！)

さて、翌日タイの指サックメーカーへ。
バンコクから車で約1時間半、片田舎の工業団地にあります。
到着後、お茶をご馳走になり、いざ工場見学。(正確には工場視察。)
工場の中は・・・やはり暑い！ 普通に40℃以上ありますっ！
でも従業員の皆さん、涼しい顔で挨拶してくれます。(サワディー・クラブ！)

見た感じ、指サックの生産は順調の様様。
工場の奥へ進んで行くと・・・？ ちょっと以前とは様子が違います。
なんと、新しい生産機(複製)が増設されているではありませんか！
これには正直感激しました。
機械を造るという事は必ず機械図面が必要になります。
複製の製造とはいえ、正確な機械図面が無いと話になりません。
これは INNOVENTECH の機械図面が生きているという証拠です。
(ちゃんと仕事しているぜい！ INNOVENTECH！)

さらに、新しい倉庫も増設されておりました。
コロナ禍で工場の運営を危惧しておりましたが、そんな心配は無意味でした。
タイの指サックメーカーは現在もいたって健在です。

そういえば、昨年の秋頃に指サックをオーダーしたときに、
「今、生産が追い付かないので納期が遅れるかも・・・。」
との連絡を受けたのを思いましました。
生産が追い付かない・・・理由は2つあります。
一つは、原料や機械の調子が良くなく、生産が滞っている場合。
もう一つは、受注残を抱えていて生産が追い付かない場合です。
その時の話を聞くと・・・理由は後者でした。
その実情を聞いてビックリ！

昨年あるディーラー(誰もが知っている大手電子機器メーカーに関係のある)から大量の受注があったとの事。
その数量(個数)がえげつない。

なんと、10桁!!! 10桁ですよッ! じ・ゆ・っ・け・た!

中国人が一人一つずつ指サックをはめてもまだ余る数量です。

(IKKO さんもびっくりです。「どんだけ〜っ!」)

こんな数量のオーダーはいまだかつて聞いたことはありません。

この話をしていると、なぜかジャイアント馬場さんを思い出します。(「アッポ〜ッ!」)

タイの指サックメーカー、恐るべし!

無名ですが、指サックの生産数量はおそらく(間違いなく)世界一です。

話が長くなりますので、今回はこの辺で。